

障害者相談支援従事者研修テキスト 初任者研修編

－ 追 補 －

- 『障害者相談支援従事者研修テキスト 初任者研修編』（以下「テキスト」といいます。）において、演習1のモデル共通事例として掲載した「仕事も趣味も充実した暮らしを続けたい40代後半の男性の支援」（テキスト pp.214－220）の理解に資するため、次の補足資料を作成しました。
- 【書式2】ワークシート2〈記入例〉
 - 【書式3】ワークシート3〈記入例・記入要領〉
 - 【書式4】ワークシート4〈記入例〉
- また、実際の研修（演習）においては、共通事例として地域の実例を用いることを推奨していますが、これに関して次の参考資料を掲載しました。
- （参考資料） 共通事例作成（選定）のチェックポイント〈講師向け〉

— 目 次 —

【書式 2】 ワークシート 2 〈記入例〉	3
【書式 3】 ワークシート 3 〈記入例・記入要領〉	4
【書式 4】 ワークシート 4 〈記入例〉	7
(参考資料) 共通事例作成(選定)のチェックポイント〈講師向け〉	8

- * 本資料に掲載されている書式及び記入例は、「厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業「相談支援従事者研修のプログラム開発と評価に関する研究(研究代表者:小澤温)」(以下「厚労科研」といいます。)及び「平成 30 年度障害者総合福祉推進事業「相談支援従事者研修ガイドラインの作成及び普及事業」(初任者モデル研修)」で用いられた資料をもとにしています。
- * 書式 3 については、厚労科研において提案されたニーズ整理票(近藤直司『医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技術を高めるハンドブック 第 2 版 — ケースレポートの方法からケース検討会議の技術まで』明石書店、42 頁、2015. を一部改変により作成)を分割して掲載しています。
- * 「共通事例作成(選定)のチェックポイント」は、厚労科研の「平成 28 年度～29 年度総合研究報告書」の資料 1 に掲載された内容をもとにしています。

【書式2】ワークシート2〈記入例〉 人となりの理解とストレングスに着目するためのストレッチ

① 最初に大づかみにとらえた本人像・第一印象（端的に）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人としての基礎力のある人。 ・ 家のことも慣れればできるようになる可能性のある人。 ・ 趣味をもっており、追求して楽しめる人。 ・ 自分の望みを隠さず、達成しようとする意思のある人。 ・ よくいる少年のままの部分の多い中年男性。
--

② スtrenグスにとらえたことをできるだけ数多くあげる。

性格・人柄／個人的特性	才能・素質
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前の職場の人ともつきあいが継続している。 ・ 独立心がある。 ・ 好きなことはとことん調べる。 ・ 決められたことを決められたとおりにしたい性格。 ・ おだやかで優しい。 ・ お金の使い方を知っている。趣味が楽しめる。 ・ わからないことを人に伝え、支えてもらうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事を安定して続ける力がある。 ・ 収入が多い。 ・ 飽きずに同じことを続けることができる。 ・ 決められた作業は慣れればできる。 ・ 簡単な食事を作ることができる。 ・ 自分のテリトリー（部屋など）を整理整頓できる。
環境のストレングス	興味・関心／向上心
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場の仲間（特に趣味仲間） ・ 長く住み、慣れ親しんだ町に住んでいる。 ・ 昔からの友だちがいる。 ・ 本人を心配してくれる家族 ・ 話の合う姪 ・ プラレールに強いおもちゃ屋 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の仕事を続けたい意欲がある。 ・ プラレールや電車 ・ 旅行（鉄道旅行） ・ 食べること

※ 四つのマスのどこに入れる(分類する)かは、さほど重要な問題ではない。

【書式3】 ワークシート3 〈記入例・記入要領〉 ニーズ整理票

○ ①～③欄 (インタビュー～アセスメント)

インタビュー		アセスメント	
情報の整理 (見たこと、聞いたこと、データなど：事実)		理解・解釈・仮説 (作成者のとらえたかた、解釈・推測)	
<p>①</p> <p>本人の表明している希望・解決したい課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在と同じようなくらしを続けたい。 ・ 自信がないが、50歳までに独立したい。 ・ 仕事を続けたい。 ・ プラレールや電車に乗るなどして楽しみたい。 	<p>②</p> <p>(作成者の)おさえておきたい情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前の支援は本人の「卒業したい」という希望から一旦終結している。 ・ (40代の男性として日常生活を営む力はあるが、)自分で家事をするのは大変と思っている。 ・ 書類や事務手続きは手助けが必要と感じている。 ・ 新しい環境に慣れるのに時間がかかる。 ・ Suicaで決済できるものはしており、オートチャージにしている。本人は残高を管理していない。 ・ 必要な時に必要なだけ親からもらう仕組みでやっている。 ・ 経済的困窮の状況にない(給料+年金、父母の年金)。 ・ 仕事を続けたい意思がある。 ・ リストラに遭うまで30年近く同じ仕事を続けていた。 ・ 職場の仲間を作ることができ、前職の仲間との交流もある。 ・ 仕事帰りの寄り道はひみつ。 ・ 転居の経験はあるが、同一市内。 ・ 都営住宅は親が転居したら住み続けることができない。 ・ 中学(特殊学級)の友だちや仕事関係の人など本人の交友関係はこの地域にある。 ・ 姉夫婦は県外だが月1度は来訪する。 ・ 父母の出身は沖縄。 ・ 先行きの不安をことごとくに口にしているが、帰る決意を口にしている。 	<p>本人</p> <p>③</p> <p>【生物学的なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の財産や家計を把握していないのは、経験がないためではないか(支援があれば自ら金銭管理できるのではないか)。 ・ 特にオートチャージのSuicaを使ったり、枠組みを決めず、親に管理してもらっていた。 ・ 新しい職場でできた仲間の影響で使うお金は増えたが、特に生活が破綻するようなりリスクはないのではないか。 <p>【心理的なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独立心やひとり暮らしをしたい気持ちはあるが、経験のなさやひとりで完遂するのが困難なことがあることが不安や自信のなさにつながっているのではないか。 ・ 不安や自信のなさは強く、大きな環境変化がある場合、慣れるには時間をかけた丁寧な支援を要することもあるのではないか。 <p>【社会性・対人関係の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学卒業以来ほぼ一貫して定職についており、仕事が本人の重要なアイデンティティになっているのではないか。 ・ 趣味や楽しみ、自信のあることについては自分で広げる力があり、過度の関与は望んでいないのではないか。 	<p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ずっと同じ地域に住み続けてきており、今後の住まいも同じ地域で考えるのが妥当ではないか。 ・ 姉夫婦や姪との関係は悪くなく、ある程度のサポートは依頼できるのではないか。 ・ 父母は故郷への愛着があり、もともと帰りたかったが、本人の存在もあり、帰れなかったのではないか。 ・ 対人関係が苦手と言っているが、慣れれば本当は人と接するのが好きなのではないか。 ・ 会社の人や友だちも巻き込んで、本人のサポートネットワークが作れるのではないか。

* 記入要領 (①～③欄)

- ・ ①欄には、<本人の希望>を記入する。
- ・ 次に③欄に、それに対する<支援者の理解や解釈、仮説>を記入する(【生物学的なこと】【心理的なこと】【社会性・対人関係の特徴】のどの欄に記入するかにこだわりすぎないようにする)。
- ・ 続いて②欄に、そのように解釈した理由・根拠(客観的事実)を記入する。

○ ④～⑥欄（アセスメント～プランニング）

アセスメント	プランニング	
理解・解釈・仮説② (専門的アセスメントや他者の解釈・推測)	支援課題 (支援が必要と作成者が思うこと)	対応・方針 (作成者がやろうと思うこと)
<p>・内科医師より 健康診断の結果、生活習慣病の傾向はみられるものの、治療や生活上の制限が必要な状況ではない。 ただし、ひとり暮らしをするのであれば、偏った食生活にならないよう配慮してもらいたいが、一般的な成人男性であれば誰も追うリスク程度である。</p> <p>・職業リハビリテーションセンターの作業療法士より 以前の転職の際に職業評価に関わった。当時は自己肯定感が下がった状態であったが、それでも集中力や課題を完遂しようとする力があつた。定型的な作業については企業で十分就労できる力がある。</p> <p>・職業リハビリテーションセンターの臨床心理士より 以前の転職の際、職業評価の一環として心理検査を行った。 知能検査はWAISではなくWISCにて検査を実施。全IQは55。若干言語性・視覚優位。</p> <p style="text-align: center;">④</p>	<p>・できる限り本人の大事にすることが継続できる「独立」に向けたイメージづくり。</p> <p>・金銭や家計管理ができるようになるための支援(とそれでもなおかつ必要な支援の把握)。</p> <p>・家族の安心感と納得。</p> <p style="text-align: center;">⑤</p>	<p>・今度の本人の「独立」に向けたイメージづくりと本人に具体的に必要な支援の把握。 →ひとり暮らしをしている先輩宅訪問 →不動産屋さんに行ってみる。 →親がしばらく帰省している間の様子把握。 →グループホームの見学や体験。</p> <p>・本人が金銭や家計管理ができるようになる支援とそれでもなおかつ必要な支援の把握。 →本人の財産や家計について、親も交えて話をする。 →日常の暮らしに必要な収支を一緒に確かめる。 →相談しながら、1ヶ月自分で支出を可視化してみる。</p> <p style="text-align: center;">⑥</p>

* 記入要領（④～⑥欄）

- ・ ④欄には、第三者の＜理解や解釈、仮説＞について、整理して記入する。
- ・ ⑤欄には、①～④欄を踏まえた＜支援課題＞（本人の思いを実現するために必要な支援は何か）を、⑥欄にはその＜対応・方針＞を記入する。

○ 下段（100 字要約）

今回大づかみに捉えた本人像（100 文字程度で要約する）

「俺は 47 歳。リストラに遭ってつらい思いもした。やはり男の基本は仕事だからね。ちゃんと働き続けたい。職場の仲間でプライベートも楽しめるやつもできたしね。あと 3 年で 50 歳。いつかは独立していかなくちゃと思っていたけど、家は居心地がよくてここまできちゃった。でも、そろそろ本当に考えないと。だけど、やったことないから、わかんないしこわいんだよね。一緒に考えてくれますか？」
（ちなみにお金のことは納得がいかないだけなんだよ。）

* 記入要領（下段）

- ・ ニーズ整理でみえてきた本人像を端的にまとめる。

（参 考）

このように、本人との出会いからインタビュー、アセスメントにて得た情報を、客観的事実と支援者の主観とに整理しながら、本人の想いを軸に結び付け（構成し）、根拠をもってニーズを明らかにしたうえで支援方針をあげる作業は、本人理解を深めること、本人や関係者との共通理解にも役立つ。ケアマネジメントの過程では、多種多様な情報を得ることになるが、現在の支援展開において必要となる情報を取捨選択し、構成しながら活用することは容易ではない。支援者が自身の考えを整理し、本人や関係者と協力、連携するためにもアセスメントにおけるニーズ整理の作業は極めて重要である。

（テキスト 90 頁より引用）

【書式4】ワークシート4（記入例） 資源獲得・開発のストレッチー多様な地域資源を提案してみよう。

本人のゴール	
「現在と同じような暮らしを続けたい。50歳までにひとり暮らしをしたい。」	
↑	
提案する資源の活用 (アイデア)	根拠 (着目したストレングス)
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしや物件に関してネットで調べる。 ・ひとり暮らしの先輩の経験談を聞く。 ・当事者会のイベントに参加する。 ・ひとり暮らしをしている人のお宅訪問をする。 ・グループホームや入所施設を見学してみる。 ・住宅供給公社に今の家に住み続けられないか、一緒に話を聞きに行く。 ・「ひとり暮らしマニュアル」のような本を読む。 ・一ヶ月、試しに自分でお金のやりくりを試してみる。 ・具体的に物件探しを試してみる。 	性格・人柄／個人的特性 <ul style="list-style-type: none"> ・好きなことはとことん調べる。 ・わからないことを人に伝え、支えてもらうことができる。
	才能・素質 <ul style="list-style-type: none"> ・決められた作業は慣れればできる。
	環境のストレングス <ul style="list-style-type: none"> ・理解と経験のあるいい担当者のいる不動産屋さん
	興味・関心／向上心
↑	
本人のゴールを実現するためのショートステップ	
「現在と同じような暮らし」「独立」の具体的なイメージを作る。	

※ 根拠はもちつつ、できるだけ数多くあげる。

※ 可能な限り自由に発想し、地域のありとあらゆるものを資源ととらえる。

(参考資料) 共通事例作成(選定)のチェックポイント〈講師向け〉

—総論—

- 初任者研修において、相談支援従事者として身につけるべき視点・技術を明示しやすい事例となっているか
- 初任者研修の目的のひとつであるサービス等利用計画作成の基礎の習得という観点に沿った事例(障害福祉サービスの利用が想定できる事例)となっているか

—各論—

- ケアマネジメントプロセスが明示しやすい事例であるか
- 本人中心、本人主体が明確にしやすい事例であるか
- 権利擁護・意思決定の視点が明確にしやすい事例であるか
- ストレングスやエンパワメントの視点に意識を向けやすい事例であるか
- 障害福祉サービスをはじめとするフォーマルサービスだけでなく、地域の様々な資源に目を向けやすい事例であるか
- 多職種連携・チームアプローチが意識しやすい事例であるか
- 相談支援従事者の役割や業務が理解しやすい事例であるか